

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第10回 川西市参画と協働のまちづくり推進会議	
事務局(担当課)		地域分権推進課	
開催日時		平成24年5月25日(金) 午後6時から午後8時	
開催場所		庁議室	
出席者	委員	岩崎会長、高畑副会長、相川委員、磯部委員、荻田委員、荻本委員、奥村委員、佐伯委員、高木委員、土肥委員	
	その他	地域・相談課長 市民活動センター・男女共同参画センター指定管理者(特活)市民事務局かわにし	
	事務局	総合政策部長、政策推進室長、地域分権推進課長、同課主査、同課主任、同課主事	
傍聴の可否		可	傍聴者数 1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		(1) 開会 (2) 委員の就任について (3) 基本計画の策定について (4) 閉会	
会議結果		別紙議事録のとおり	

<p>【開会】 会長</p>	<p>それでは6時、定刻になりましたので、「第10回川西市参画と協働のまちづくり推進会議」を開会させていただきます。</p> <p>皆様、本日はご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。冒頭に、前回、3月19日の中間提言の際、私自身が休みまして皆様にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。</p> <p>今日は相川委員が30分程遅れられるということですので、先に始めさせていただきます。</p> <p>前回、これまで推進会議で議論してきたことを中間的にとりまとめたものを大塩市長に提言させていただきました。</p> <p>前回の最後に、今後のスケジュールということで事務局より説明がありましたが、これから、限られた回数ですが、最終答申に向けて議論を進めていかなければなりません。</p> <p>今日の予定ですが、まずは、前回をもちまして退任された佐島委員の後任として、NPO法人 地域活動ステーションぬくもりの家 代表理事 <small>たかき れいこ</small> 高木冷子さんが新しく委員に就任されることになりましたので、自己紹介をお願いしますでしょうか。</p>
<p>高木委員</p>	<p>私は、清和台でお世話になっておりまして、15年前に地域活動という形で高齢者、障害者のための場所づくりという形で始めさせていただきました。何もわからないところに引っ越してきて始めましたので、人とのつながりもない状態で、そこで、やっぱり自分のほうから繋いでいかなければならないということで、色んな方と繋がりを作っていきながら、ちょうど今年で15年目になりました。</p> <p>おかげさまで地域の皆様にもとてもよくしていただき、支援もいただいています。色んなことで地域に大変お世話になっています。これからも、自分でできることがあればお手伝いしていきたいと思っております。どうぞよろしくおねがいします。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしくお願いいたします。繋ぐことをずっとしていらっしやった。そこでいろいろ感じられたことを、これからこの会議で是非お披露いただき、参画と協働のまちづくりの推進計画をより実りあるものにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいします。</p> <p>では、私のほうから各委員をご紹介します。</p>

	<p style="text-align: center;">（各委員の紹介）</p> <p>それから、事務局のほうも異動があったんですね。</p> <p>事務局      はい、新年度、若干メンバーがかわっておりますので紹介させていただきます。</p>
	<p style="text-align: center;">（事務局等の紹介）</p> <p>会長      では、3 議事に入らせていただきます。先ほど、申し上げましたが、これから、9月末を目途に最終答申をまとめていくわけですが、これから最終答申に向けて、まず、私たちは何をしなければならないのか、スケジュールも併せて、まずは、事務局より説明をいただき、もう1度、皆さんで再確認したいと思います。</p> <p>では、事務局、お願いします。</p>
事務局	<p>事前に資料を送らせていただきましたが、右肩に「第10回参画と協働のまちづくり推進会議資料」と書かれた、A4ホッチキス止めのペーパーをご覧ください。</p> <p>また、前回、市長に提言いただいた中間とりまとめも一緒にご覧ください。</p> <p>前回、市長にご提言いただいたところですが、その手前の第8回の議論の中で、中間提言時点で最終答申までにはやらなければいけないということが何点かありました。その点について、事前に送付させていただいた資料にまとめております。</p> <p>資料をご覧いただくと、1つ目の星のところ「中間提言にかかる議論の際に、最終答申までにしなければならないこととして下記の意見が出されました」ということで4つ書いております。</p> <p>まず、1つ目ですが、中間提言時点では、「資料」という形で添付していましたが、では、最終答申ではどういった項目を優先的に進めるか、またこの項目が特に重要だという濃淡をつけていく必要があるという意見、そして の方では、資料として添付している各項目について提案者の思いを入れながら、ストーリーを作って並び替えていく作業が必要</p>

だというご意見がありました。

とは似通っていますので、これについてまとめてご議論していただきたいと思っております。

また、その次に ですが、中間提言の中には計画策定にかかる基本的な考え方ということで、条例の理念を書いております。その際に、委員の方から、それをさらに進めこの計画を推進した先に目指す姿、5年後の理想像のようなものを示したらどうかというご意見をいただきました。これについて、最終提言までに検討しましょうというお話がありましたので議論が必要だということです。

また、では、中間提言以降は、分権制度のこともございますので「地域」という言葉の使い方について注意が必要だというご意見が出ておりましたので、その点についても議論が必要になってくると思います。以上、大きく3つの点が中間提言時点での残った課題でございます。それから、もう一つ、大きなポイントとして、「地域分権制度」について最終答申にどこまで盛り込むかという点については、まだ議論されておられません。

事前送付資料の の2つ目をご覧くださいますと、これまでの議論の中から地域分権制度に関わってくるご意見を抜き出して、項目ごとに分類しております。

中間提言までは、市全体の参画と協働の話をするということで進めてまいりましたが、どうしても地域のことも絡んでまいりますので、改めて会議録を読み返してみますと、実は、既にたくさんの問題点、ご意見が出ております。

既にお目通しいただいたと思いますので、ごくごく簡単に見ておきますと、まず、全体の制度構築にかかる進め方、そして、2ページにかかりますが、組織や担い手の話としましては「地域分権の受け皿・担い手」、3ページの組織同士の関係や役割、そして4ページでは合意形成の方法や責任の話、5ページでは課題や情報共有の場としてのラウンドテーブル、その下では組織間・組織内の交流、6ページの方では「財源」の話、特に現行補助金の問題や今後の補助金のあり方について、かなりご意見をいただいていたと思います。また、7ページの下、「地域担当職員」や最後には「活動拠点」の話が出ていました。

このように大きく分類していきますと、かなりたくさんのご意見が出ています。

地域分権制度につきましては、以前、部長の方からも述べておりますが、今後、地域分権制度というものを具体的に考えていくにあたり、この推進会議の中で具体的な制度設計までやっていただくかどうかということは、少し事務局のほうに委ねていただきたいということを申し添えました。

ただ、「あるべき姿」、地域分権制度を川西で新たに導入するにあたり、少なくともこの部分については、外せない、外してはだめだという方向性や、骨格の部分につきましては推進会議のほうで議論いただきたいと思っており、これがいわゆる推進会議の役割であると考えております。

スケジュールを見ていただきたいのですが、本日公布していますA3縦長のスケジュール表をご覧くださいますと、右側3分の1くらいのところに「基本計画の策定」として、上から下に矢印が引いてありますが、この部分のスケジュールを前回、委員からご意見いただいたことも踏まえ、若干、変更いたしております。

一番上の黒丸に白抜きで書いてあるところですが、こちらが3月に「中間とりまとめを市長に提言」ということで、その下の黒丸、「推進会議」と書いてあるところが本日の会議です。次回は7月の下旬ぐらいを予定させていただいておりますが、今回と次回の2回で、先ほど申しあげた積み残しの3点、そして、地域分権制度についての推進会議としての方向性についてのご議論をいただきたいと思っております。

限られた回数の中での議論となりますが、今回につきましては、中間とりまとめでの積み残し部分についてのご議論をいただき、次回は、地域分権制度についてお願いしたいと思っておりますが、地域分権制度に関しましては、さきほどご覧いただきましたとおり、ほぼ意見も出尽くしていると思っておりますので、事務局の方で、一旦、今出ているご意見を次回までに方向性や骨格の部分としてもう少しまとめたいと思っております。そのまとめたものについてご意見をいただくという形でお願いしたいと思っております。

2回のご議論をいただいたものを、事務局の方で最終の答申案としてまとめさせていただき、8月の推進会議ではそれらについてご意見を賜り、最終調整させていただいたのち、9月の下旬から10月の頭ぐらいにかけて市長へ答申を提出というスケジュールでお願いしたいと考えております。

<p>会長</p>	<p>その答申を受けて、事務局の方で基本計画を書き込み、できあがった素案については、また12月の推進会議で皆様にご報告させていただきたいと考えております。ちょうど、2年間という委員の任期が12月21日に切れますので、それまでには皆様にお示しするとともに、この時に合わせまして、23年度の参画と協働の取り組み状況を報告させていただきたいと思っております。</p> <p>少し先の話になって恐縮ですが、基本計画の策定が一段落して、委員の改選があったのちの来年の話を、若干させていただきたいと思っております。</p> <p>地域分権制度について、昨年度は、市のほうでは地域の課題や資源の洗い出しを行い、将来、どんな姿であってほしいかというビジョンを地域に入って作らせていただきました。</p> <p>現在、総合計画の担当課では、それを第5次総合計画の地域別構想として位置づけようと作業を進めており、同時に、地域分権推進課では、今年度も地域にお伺いし、各地域で具体的な制度構築に向けた意見交換をさせていただき、また、庁内ワーキングでの地域担当職員の検討も進めてまいります。</p> <p>それら全ての情報をもちまして、また、基本計画案の段階で、地域分権制度の骨格の部分について述べられているものに沿って、専門的に審議いただくような専門部会を、この推進会議のもとに設置させていただきたいと考えております。</p> <p>この段階では、再度、「地域分権制度のあり方について」、改めて市長から諮問をさせていただく必要があるかと考えています。</p> <p>その専門部会での具体的な制度設計の議論を経て、再度、推進会議の全体会にもフィードバックし、ご意見をいただき、最終的には「地域分権制度」についての提言を、推進会議から別途いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>今、事務局から説明があったように、当面、9月に最終答申を出すために、今日を含め2回の議論の中で、今回は中間提言時点で積み残しになっていた3点についての議論をすることとして、優先順位をつけること、理想像として5年後の姿をどのように示していくのか、あるいは、それは先送りにするのかどうかということ、そして「地域」という言葉を我々なりに共通認識を持っておかななくてはならないという3点につい</p>
-----------	--

	<p>て議論する。</p> <p>そして、次回については、これまでの地域分権制度について出された意見を、事務局の方でまとめていただき、それについての議論をしていこうということです。</p> <p>そして、中間提言にプラスする形で、最終答申案をまとめていただき、それについて審議し、そして、9月には最終答申を市長にお渡しするというスケジュールだということです。</p> <p>ここまでのスケジュールについてだいたい承知いただいたでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>そのあとの説明まで続きましたので少しややこしくなってしまいましたが、一度その推進会議の答申を受ける形で、A3のスケジュールでいうと総合計画の調整を経たうえで、推進会議のもとに地域分権のあり方についての専門部会を作り、具体的な制度設計をして、それをまた再度議論をして、最終的には基本計画の中の地域分権制度としてはっきりと運営できるようにもっていこうというスケジュールです。よろしいですかね。</p>
委員	<p>今のスケジュールの中で、9月の最終提言に向けて、地域分権制度のある程度の内容を盛り込むということですね。それは入れるのですね。</p>
事務局	<p>はい。方向性や骨格の部分についてです。</p>
委員	<p>事務局から、地域分権制度そのものの内容については、推進会議では、来年の1月以降に専門部会を設けて話をするということになっていますので、9月の時点で、ここではそういう議論はしないということですね。</p>
事務局	<p>はい。具体的な制度の内容については、この場では議論しません。地域分権制度につきましては、これまでたくさん意見をいただいていますので、例えば全体の進め方については、こういう方向性で行なってほしいといった事を、推進会議として最終答申に盛り込んでいただく案を作りたいと思っています。</p>
委員	<p>それは、推進会議で意見を諮って、提言を出すということですね。</p>

事務局	そうです。
会長	特に、あるべき姿、地域分権制度の姿についての方向性や骨格のようなものについては、ここで今までいただいていた議論を基に、一旦たたき台を作っていただくということですね。
事務局	はい。
委員	<p>それは大まかな内容になると思います。具体的な内容については、来年1月以降の専門部会において議論するということですね。</p> <p>それと関連して、8月から14地域でラウンドテーブルを開催されるということですが、その中で地域分権制度は具体的にどんな仕組みであるべきなのかを話し合うことと、9月の提言の中に地域分権制度の方向性を盛り込むということと、どのように関連しているのでしょうか。</p> <p>我々が期待していたのは、地域分権制度そのものの内容であり、これがある程度理解されていなかったら、話し合いができないわけです。</p>
事務局	それは、地域のラウンドテーブルの方のお話ですね。
委員	8月の時点で、地域分権制度の内容をある程度説明されたうえで、その問題について話を進めていくのであれば分かり易いのですが、それは考えていない訳ですか。
事務局	<p>まだ、地域分権制度の固まった内容を持ち合わせていませんが、骨格はこれまでの議論の中で出てきた様なものであろうかと思います。各地域に入らせていただく第1回目の時には、当然去年の続きの議論になってまいりますので、「課題を地域で解決していただく時には、こんな制度であれば使いやすい」という様なお話、また「地域の方に縦割りで出ている補助金を、一括で交付した方が地域で使いやすい」など、色々なご意見が地域の方から出てくると思いますので、ご意見をいただくために、事前に皆様方にはご説明させていただいてから意見交換を始めたいと思っております。</p>
委員	昨年9月以降、地域で3回ずつ開催されているわけですね。その内



	<p>容の延長線上であっては、少し困るなという気がします。昨年度は、第5次総合計画の中での地域ビジョンを考えるということで、地域別懇談会を行った訳です。今回については、「おおむね地域分権制度とは、こういうものですよ」という内容を参加者に教えていただいたり、「他市ではこういう方針で実施されている」と具体的に事例を出してもらい、そのうえでラウンドテーブルを行うのであれば意味があると思いますが、その辺は考えておられますか。</p>
事務局	<p>スケジュール表の白い枠の中に、14地域×3回と合同会2回と書いていますが、まず地域別に入る前に合同会を行いたいと考えております。</p>
	<p>まちづくりフォーラムの様な形になるのか、その辺りの詳細はまだ詰めておりませんが、そういった場で市内のたくさんの方に集まっていたら、他市の事例等も紹介し、皆さんに一定ご理解いただけるような機会を作り、その後に各地域に入らせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>そういう考え方があるならいいと思います。進め方の問題ですから。</p>
会長	<p>総合計画の地域別の構想がベースですから、地域の課題を出して、その課題を住民の皆さん、地域の人たちが解決するための仕組みとして、どのようなものがあれば良いかという議論になります。</p> <p>従って、川西は全市一律ではなくて、14地区でいろいろな組織構成があり、団体構成がある。そうすると、川西の小学校区単位の地域別ラウンドテーブルで目指すべき、地域内住民が自ら課題を解決できる仕組みも、ひょっとして14通りあるかもしれないわけです。</p> <p>川西として共通して実施しなければならないことは、推進会議でも提案しなければいけないし、地域のラウンドテーブルで出てくる意見を拾い集めて、共通する部分を推進計画の方に反映させる。そういうやり方は、有り得ると思います。</p> <p>少なくとも、この推進会議の中では、「地域分権制度はこれ」という決め方はあえてしていない訳です。そういう意味では、目指すべき方向性や骨格を次回議論しながら、ラウンドテーブルの話で少し肉付けをして、それらを含めて専門部会の方で詳細な制度設計をしてという形になっていくのでしょうか。</p>

<p>委員</p>	<p>繰り返しますが、まず合同で集まるのが2回になっていますが、まず、十何地区かで個別開催する前に最低1回は、全体の会議をまずやっていただく必要がある。それ以降は各地区でやっていく。その中間か最後に2回目の全体会を開催する。必要であれば、3回目を開催する。そういう手順を踏んでいかなければ、少しまずいと思います。</p> <p>それは、推進会議の中での議論とは別になりますが、総合計画と推進会議と地域別懇談会という3つの流れがあって、それを全部考えていくという話になっていたと思うのです。</p>
<p>会長</p>	<p>スケジュールについてはよろしいでしょうか。</p> <p>では、早速、今日の議論に入りたいと思いますが、今日は、先程もお話がありましたが、中間提言時点で積み残しになっていた3点についての結論を出していきたいと思います。</p> <p>まず、1点目です。さきほどの中間提言書をご覧くださいと、後ろの資料編の資 2、3、4 ですが、ここにはズラッと解決策案で「情報共有のしくみづくり」「担い手の発掘、育成、支援のしくみづくり」「意識啓発の仕組みづくり」というふうに項目が並んでいます。この並んでいるものの中から、川西での協働のまちづくりを推進するためには「特にこういうところから始めた方がいいのでは？」という優先順位づけについて、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>その際に中間とりまとめの7ページのイメージ図、「意識啓発」「情報共有」「担い手の発掘・育成・支援」というものが、このように進んでいくのではないかと、そして、そののちに地域分権の実現があるのではないかとという流れになっていますが、この図も参考にさせていただきながら、特にこんなことを優先的に取り組むといいのではないかとということをお30分くらいでご意見をいただければと思います。</p> <p>といいますのは、今日やらなければいけないことが3つあり、30分～40分で時間を区切りたいと思います。</p> <p>2つめは5年後の姿、理想像というものを答申に入れるのかどうか、また、入れるとすれば、どのようなものにするのかということをお議論していただかなければなりません。</p> <p>それからもうひとつが「地域」という言葉の使い方について、少し定義づけをしておく必要があるのではないかとおっしゃったので、</p>

	<p>その「地域」という言葉についての議論を、この3点を今日中には何とか固めておきたいと思います。</p> <p>まず、これから30分～40分位の間、この資料の2、3、4の部分で、ここから進めていきたいという優先順位付けの作業を少しお願いしたいと思います。</p> <p>では、どうでしょうか。</p> <p>7ページの資料を参考に考えると、自分自身、地域分権の取り組みをするのに、どういうやり方がわかりやすいのかと考えたところ、市民の意識改革と職員の意識改革、やはりそこがベースになって色々なことが進んでいくと思われます。まずは市民の意識改革、職員の意識改革。</p> <p>情報の共有化は、同時進行で始められるところと意識啓発が徐々に進むにつれて、例えば職員の意識啓発が進んでいくと色々な情報の収集が進んでいくという仕組みにもなっていきますので、順番的には意識啓発、情報の共有化。そして同時にですが、担い手の発掘や支援の仕方などは、完全に順番などが無いと思います。同時に取り組んでいくべきものが情報の共有化であり、担い手の発掘・育成・支援であると思うのですが、まず、第一にあるのが意識啓発。そのためにも、あとで議論になると思いますが、よりわかりやすい5年後の姿や、1年目、3年目、5年目というような区切りをつけた理想像というものが必ず必要になるのだと思います。</p>
委員	
会長	<p>ありがとうございます。他はいかがでしょう。</p>
委員	<p>意識啓発も大事ですが、まだまだ、「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」という存在そのものが、市民の皆さんに、ほとんど知られていないと思うのです。</p> <p>パンフレットもあって、ある程度は配っていますが、それが各一般の市民の家庭にまでは入り込んでいません。</p> <p>広報の中でもかなり書かれていますが、広報の中でもおそらく40～45%くらいしか読まれていないと思います。この会議のメンバーもずっと記事に書かれていますが、読まれていないケースがかなりあると思いますので、やはり広報をドンドン出していくという形を第一義的にやったほうがいいのではないかとというのが私の考えです。</p>

会長	<p>総合計画に向けてラウンドテーブルをやっているのも一つのPRの場であるのでしょね。</p>
委員	<p>8月から2回目の地域別懇談会をすることになっていますが、それと9月の提言におそらく間に合わないと思いますので、市民活動団体、NPOを含めて市民、事業者、一堂に会した全体集会みたいなもの、全体を集めてこんなことをやっていますよというアピールはほとんどされていないと思います。</p> <p>昨年7月にキックオフフォーラムをやりましたが、あの後すぐに一般の市民の方を対象に、同じアステでラウンドテーブルを1回だけされたと思いますが、それだけだと思います。あの時にチラシを配られていたと思います。</p> <p>それ以降は地域別懇談会にスーっと入って行っていますので、一般の市民の方にはまちづくり推進条例がなかなか浸透できていないと思います。ですから、地域ラウンドテーブルをいきなりやるのではなく、地域の人も含めてなにか広報活動をするほうが良いと思います。</p>
委員	<p>私も副会長と同じ意見で、それが無ければ意識は揚がらないですよ。確かに、まちづくり推進条例自体を広く理解していただくというのは、この解決策案に入っていないのですが、大前提のことなので、恐らく入っていなかったのではないかと思います。しかし、やはりこれは一番初めに必要なことだろうと思います。</p>
会長	<p>市民意識の向上の細目の部分では、市民の啓発事業の話などがありますが、この部分が一番重要になってくるのではないかという意見です。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>同じような意見かも知れませんが、会長が言われるように川西のなかで、14の地域があって、それぞれが違う問題を抱えていて「バラバラ」というような言い方なのですが、「オール川西」ということで考えていけばそうでない部分もあるように思います。</p> <p>まず市民意識の向上という資料 3のところですが、やはり意識の「高揚」というような形で、やっぱり市民一人一人の意識改革が優先順位</p>

<p>会長</p>	<p>としてはまず1番重要だと思います。</p> <p>意識を向上していくにあたって、一つの課題に向かって意識を共有するような仕掛けづくりが必要だと思いますので、「隣の村のことは知らないわ」ということではどうかと思います。</p> <p>ですから、不可能な話かもしれませんが16万人全員が一つの課題に対して意識を共有し、それから何をすべきか考えられる方は考える。地域分権ということで各地域地域で一人の市民に「じゃあ、あなたにお金を渡すから何かやってください」と突然お金渡されても...ってことなので、やはり色んなことに携わる機会を増やしていくことが先決かと思います。</p> <p>そういうところで、事業者は色んなネットワークを持っています。組織という形になればネットワークもありますし動きもいいと思います。そういうところで事業者間の中でも先導役なり何かアクションを起こしていけるのではないかと思います。</p> <p>具体的なお話は私ではできないのですけれども、そういう立場には事業者も入れると思います。誰がやるというところでなら。とりあえず問題意識を共有するということが大切だと思います。</p> <p>そうですね。誤解されると困りますので、念のため言っておきますが、バラバラであっていいということではなくて、地域の色んな課題に取り組むやり方が地域によって違うのだらうということですよ。</p> <p>当然ながら、オール川西でやらなければならないなということはありますし、その時に事業者の皆さんの果たす役割というのは非常に大きいし、それでなおかつ事業所のあるところ、あるいはお住まいのところ、川西市全体のつながりを、小学校区程度のエリアとオール川西市全体の部分とをつなぐ役割というのは、恐らく中間支援組織であるとか市役所であるとか、あるいは事業者の皆さんにやっていただく役割というのが出てくるのではないかなというふうに思っております。</p> <p>ただ、色んなやり方とか課題解決の仕方については、たぶん小学校区ごとの地域で変わってくることがありうるだらうし、それを逆に14地区全部同じやり方でやりましようと言ったら、地域の個性もなくなってしまふという話だし、進むものも進まないのではないかという気もします。そういう意味で、小学校区程度の地域での14地区のそれぞれでいろいろやっていく必要があるということですよ。</p>
-----------	--

委員	<p>どの項目を優先的に進めるかといった場合ですね、情報収集とか人材発掘とか、具体的な事項としての問題もあるのですが、それ以前に地域分権を主体的に誰が担って、誰が推進していくかというベースの部分がしっかりしていなければいけないと思います。</p> <p>というのは、たとえばある町のように自治会加入率が99%というところは、自治会活動がしっかり住民にバックアップされてやってきました。そこでドンドン決定もできるし、推進もできます。</p> <p>ところが、町によっては自治会の参加住民が20%とか30%のところもあります。そういうところで、果たしてどこまで主体的に取り組んでいけるのか。どこに向かって行政は話をすればいいのか、地域として受け止めて推進していけるのか。相手がないのです。</p> <p>これは前にも申しあげましたが、まず自治会がいいかどうかは別にして、自治会的なもの、町民全員が納得できる組織がそこにあって、それを動かすことによって、地域もできるし、行政も「そこを目がけてやればいいのだ。」と思うようになる。そういうものがないのに、いくら具体的にこういう項目を優先的にやろうと言っても、なんにも具体的に成果があがらない。あげられますか。そういうキャッチボールする相手をしっかりと、球を受け止めてもらわなければ。</p> <p>同じ地域の中でも、例えばある地域は八つの自治会からなっているのですが、ものすごく差があるのです。地域分権がどういうものかわからないというところもあれば、どういう扱いをしていいのかわからないという町もあり、もう少しそのところを、まず一度にできなくても地ならしをやっていく、何年かかってもそういうことを並行的にやっていかなければものにならないと思います。</p> <p>自治会の組織率が高いところに対してはもっと有利な政策を増やしてやるとか、私が「行政さん指導してください」というのは、そういうところなのです。あなたがた自身がどこへ政策をぶつけたら有効に機能するかという、その相手をしっかりと作っておかなければ、ものにならないという気がします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。地域に具体的に働きかける場合もその相手方をどこに置くのか、そこをはっきりさせないとまずいというお話ですね。</p>

委員	<p>それは地域分権制度の中でもたくさん出てくると思いますが、施策の中では入らないと思います。この議論の中では。</p> <p>地域分権制度の具体的な内容になってきた時にその活動団体、地域的な活動団体が、どこだと、誰が認定するのかという問題も抱えていますから、それは次の段階の話になると思います。</p>
委員	<p>そういう受け取り方もあるかもしれません。</p> <p>しかし、国が国政を打ち出す時に、自治体にぶつけるのですよ。</p> <p>それは自治体がそれを受け止めてちゃんとやってくれるという信頼関係があるからです。ただね、市と町についてそれは未熟なのです。成熟していない。</p> <p>それをきちっと構築することを同時的にでもやっていかんと有効に働かないと思います。</p>
委員	<p>それは確かにそうだと思います。</p> <p>ただ、川西の場合をいうと、北部・中部・南部でその差は色々あると思います。それをいわゆる「多様性」ということで今まで言ってきたわけです。自治会の加入率についても、ものすごくいいところと悪いところがあります。それを同じようにするというのはよくないと、今まで言われています。要は、どこが主体となって活動しているのだということ、まず認めてもらわなければいけないということです。</p> <p>それは、次の地域分権での話になってくると思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。地域には、多様ないろいろな団体が活動されているということですね。</p>
委員	<p>地域には自治会だけではなく、ボランティアグループやいろいろな団体があるわけです。</p>
委員	<p>そういう意味での地域ということではなく、1人ひとりに言わなくてはどちらを向いているか分からないというようではだめで、まずは地域として、まとまった動きができるかどうかということ、できる町とできない町がありますよ、それをほったらかしにしては、話は進まないということが言いたいのです。</p>

<p>委員</p>	<p>資料 2、3、4 頁に話を戻します。小項目について案で並んでいるものについて挙げた後、その全体のまとめ方についてお話ししたいと思います。まず小項目の案についてです。</p> <p>(1) 情報共有のしくみづくりの大項目には、3つの中項目がありますが、その1番目の「多様な媒体による情報提供とネットワーク化」の中の 行政内部での地域情報等収集、共有の仕組みと 地域カルテの作成、とくに が思います。中項目2番目の「市民公益活動に関する情報提供の充実」では 総合的な情報窓口の設置の部分。</p> <p>次に大項目(2) 担い手の発掘、育成、支援のしくみづくりには、4つの中項目がありますが、1番目の「担い手の発掘、育成の充実」の中の 「参画と協働のまちづくりの推進」に関する情報提供と啓発により、新たな人材を求める、 住民同士の話し合いの場に、ファシリテーターやコンサルタントを派遣するしくみ、 市民公益活動を行う団体への運営アドバイザーの派遣・・・これらはほとんど並列です。</p> <p>大項目(3)の意識啓発のしくみづくりにも、4つの中項目がありますが、1番目の「庁内協働推進体制の整備」の 行政内の縦割りの動きだけでなく、横断的に動けるしくみづくり。3番目の、「市民意識の向上」の 自治会相互、コミュニティ相互の見学会。これらを組み合わせて何か始められないかと思います。</p> <p>順に説明します。私は地域情報というものが、見えている人には見えているのですが、見えていない人には全く見えていないため、なかなか課題を担う人材が出てこないのではないかと考えました。そういう意味では、一番目に挙げた「行政内部での地域情報等の収集、共有の仕組み」が大事です。その情報を伝えるための総合窓口の設置を行い、尚且つ 庁内に横断的に動ける仕組みをつくる。要するに、庁内で動けるチームを作る、市民に対する窓口を作る、行政内部で持っている情報をきちんとパッケージ化して地域に届けるようなものをつくるというもので、これは行政側の課題。</p> <p>市民側の課題としては、最後に挙げましたが、もう少しお互いのことを知る必要があると思います。 自治会相互、コミュニティ相互の見学会については、規模の大小や地域を越えてやったほうがいいという意見も出ていました。NPOとの相互連絡会も入れて、お互いに何をしているのかを知る。あるいはそれぞれの活動分野のマッピングをしてみて、この部分では色んな団体が活動しているが、ここは抜けているというよう</p>
-----------	--



<p>会長</p>	<p>なものを整理する。そして、次に仲良くなっていくというのが、市民側のまずやっていくことだと思います。</p> <p>それがどうつながっていくのかというと、地域カルテの作成というのがありますが、これをプロセスとして主体形成、いわゆる色んな人がそこに交わってくるような仕組みを作れないかと思います。「担い手の発掘」のところでファシリテーターやコンサルタントを派遣する仕組みとか、何か話し合いをするときに運営アドバイザーを派遣するような仕組み。また、「新たな人材を求める」とありますが、例えば地域カルテを皆で作らしましょうという感じで、新しい人材を呼び込めるような仕掛けができないでしょうか。地図に詳しい人、コンピューターに詳しい人、見せ方を工夫できる人、統計データに詳しい人など、カルテ作成の取り組みの中で専門家を派遣してもらい、新しい人材も育てるというような仕掛けをする。地域カルテは、これからラウンドテーブルをやる時のたたき台になるわけですし、それを作る作業の中でも担い手の発掘のようなこともできて、一石二鳥になるのではないかと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございます。細目の部分をストーリーで作っていただきました。</p> <p>その中でも、地域カルテの作成という項目は、当面の目標にもなるし、人材の発掘にもつながっていくだろう、また、行政情報の集約につながっていくだろうというところで、かなり重要なことだという指摘でした。</p> <p>今、委員にお話いただいたように、一定のストーリーでこれをバラして行って、まとめなおすというのにも必要なのかと思います。</p> <p>今までの話で言うと、意識向上の話も、例えば行政から提供する情報というのは、委員がおっしゃるように、どういうターゲットがあるのかまだ見えていませんが、市民に届ける情報というのも地域カルテの中の情報がたくさんあるのでしょうか、それ以外にも、例えば市内・市外の成功事例の紹介や、それからコミュニティや自治会相互の見学会であるとか、個別に入っているものを市が責任を持って地域に届けるというの組み合わせれば、いろんな形で意識の向上が図れるのだろうというものがこの中にあるのだと思います。</p> <p>そういう観点から組み直してみるというのも一つあっていいのかも</p>
-----------	--

	<p>れないと、今、お話を聞いて思っていました。</p> <p>他に何か優先順位というところでご意見はございませんか。</p>
委員	<p>意見を静かに聞いていたのですけれど、やはり、地域分権や何かがい ろいろ出てきて混乱している感じです。</p>
会長	<p>まだ、地域分権そのものの具体的なイメージが、今はないですからね 。</p>
委員	<p>地域は、「参画と協働のまちづくり推進条例」というのは、はっきりい って頭にはないですね。</p> <p>「分権とはなんだ」という話ですね。それが地域なのです。これは仕 方ないと思うのですね。</p> <p>とりあえず私たちは今、解決策についての意見を言わなければならな いので、あまり地域分権の話に偏らないでおこうと私自身は思います。</p> <p>皆さんも同じだと思いますが、私もベースの部分で何をするにしても 意識改革は必要であるとは思いますが、ただ、一生懸命意識改革しても、 どうしても分権とつながるような、つながらないようなというのが少し 心配ではあるのですが。</p> <p>今、委員が言われた中で「育てる」という部分で、すぐに使えるなど 思ったのがありました。何かを作るのに合わせて、勉強会を兼ねながら 育てていくというものです。それは、私もこれまでそう思いながらやっ ているのですが、なかなかうまくはいきません。この地域分権というラ ウンドテーブルなどを自分たちの地域でもう少し地域で動いて何かを発 信することが必要だと思っています。</p> <p>今は、行政が来て「さあ、話し合ってください」という形でやっている のですが、そうではなくて、材料を自分たちで作るといった形もいいの ではないかと思います。ラウンドテーブルの前段階で地域でやってみる というのも面白いと思いました。</p> <p>今は、地域分権のベースとなる基本概念をとりあえず作って、そのう えで分権のほうを考えていくということが、漸くわかってきました。分 権は分権で、やってみなければ分からない部分が多いのです。</p> <p>実際、地域で一生懸命されている人は、ほとんど60歳どころか70 歳代です。40歳代なんていません。その40歳代をどうやって増やす</p>

	<p>のかということがやはり大きな問題だと思います。これだけ若いお母さんが働きに行くということしか国は言いません。地域の専業主婦が、あたかも罪があるような感じの言い方をされている感じがします。地域を支えるものがいなくなる方向に進んでするというのが、この半年間で特にきつくなってきていますので、はっきりいって私は地域分権で本当に地域でそんなに簡単にこんなことができるのかと、すごく心配になってきました。</p> <p>いろいろ勉強すればするほど、簡単にはいかない世の中になってきているので心配です。</p>
<p>委員</p>	<p>それは、結局は地域がないのです。市民はいるけど街がない。我々は地域とか街とか言っているが、本当に街なのか、地域なのかというところが問題なのです。さっきから私がくどいように言っているのは、高齢化している、担い手がいない地域で話し合いをしているのは、市民のほんの一部の人なのです。そういう状態のままで、本当に何ができますかということをお私言っているのです。ですから、そのインフラ的なものとその上に乗る具体的な項目や施策的なものという両面を押さえておかなければいけないのです。「町だ」、「地域だ」と言っても、みんながバラバラですし、自分の生活だけで今までやってきて、本当に町として主体的にそれを担って、推進していけるところがあるのでしょうか。やっていける町もありますが、ないところの方が多いし、中途半端なところもあります。それをまず統一して、地ならしをしていくことが大事です。もちろん、すぐにはできません。それができるまで放っておいては、いつまでたっても進みませんが、同時並行的にそれをやっていかないといけない。その仕掛けをするのは行政の責任だと思います。</p> <p>地域はわがままで、自分勝手なことばかり言っているということをしっかり認識しておいてください。それをビシビシ教えていかなければいけません。</p>
<p>委員</p>	<p>そういう対応についてね、実際に活動されている人と、されていない人の見識や感覚の違いというのはあると思います。私もずっとやってきて、「行政がそれを指導せよ」と言われるのは筋としてわかります。実際いつもやっているのは誰なのかということです。それは人材の担い手なんて特に入ってくるのです。</p>

	<p>委員がおっしゃったように、ほとんど実際に活動されているのは70歳前後くらいなのです。やはり若い人は入ってこないです。入ってこないのはいろんな要因があります。入りにくいとか、入れないとか、いろいろあると思います。しかし、やはり今の社会の情勢が変わっているのですよ。今でも65歳まで年金をもらえませんか。ほとんど。ですから、ほとんどが仕事に行っているわけです。</p> <p>それ以降で、自治会活動やいろんな団体の活動に入っていこうというのは、よっぽど勇気のある人なのです。そういう人たちを本当は集めなければいけないわけです。それを誰が集めるかといつも言っているのですが、それは行政に期待しても無理です。地域の人がやるべきです。</p>
委員	<p>そこのところを行政に期待しているのではないのです。人がいないというのは、人を作っていないのですよ。これは地域、自分たちの問題なのですよ。自治会でも役員がいない、新しい人がいない、若い人がいないと。例えば、任期を1年と決めてみたらいいのです。嫌でも新しい人が来ますよ。前にも言いましたが、街ができたときは、みんな会社が終わってから集まって、自治会活動をやってきたのですよ。今は、何もしません。役員も若い人たちを指導しません。若い人もやってやろうかという人もいません。どっぷり漬かってしまっている。街としての仕事をする気もありません。</p>
委員	<p>そうなのですよ。そういう社会情勢になっているのですよ。ですから、役員が当たるとか、役員やってくれということになると、極端なところでは、自治会を辞めますと言う人がいくらでもいるわけです。</p> <p>それが現実なのです。だからそれを認識したうえで考えていかなければだめなのです。</p>
委員	<p>ですから、私は、あえて自治会でなくてもいいと言っているのです。自治会やめるならやめてもいいのですよ。やめて困るのは市民なのですから。困ったときにさてどうするのか。街としてまとまりを取り戻さなければ街が死んでしまいますよ。やめたっていいのですよ。</p>
委員	<p>今まさにお話されていたことに関連するのですが、施策の優先づけの中で、やはり自治会の未加入問題が大きな課題になっているので、自治</p>

	<p>会にいかに入ってもらえるか、自治会というのはやはり地域の基本的なベースになってきますので、その加入を進めるというのが大事な部分になってきます。</p> <p>自治会によっては企業も入られているところもありますし、そういうところが、この中の担い手のところにつながってもくるのですが、抜けている部分かと感じています。</p> <p>そうすると自治会があれば、かなりの部分で加入率が高まればその自治会を通じて、色んな情報であったり、意識づけであったり、そういうもの進めていけると感じています。</p>
委員	<p>考え方はよくわかるのです。ですが現実の問題として、勧誘しても入らない人が圧倒的に多いのです。地域性にもよります。北部の戸建ての住宅とか。そんなところでも、新たに新しく入居してきた人は、入らない人も結構いるのです。加入率が悪くなっています。</p> <p>これは、何回も言っていますが、中央地区で、賃貸マンション、分譲マンションでも下がっています。ワンルームは100%入っていません。ましてや賃貸マンションにしる、分譲マンションにしる、全体の棟として全部入るのだったらいいのですが、ポツポツと入っても、そんなものは機能しません。また、今まで近辺で住んでおられる住民の方と仲良くやれるのかというと、全くできません。</p> <p>ですから今の話が通用するのは、昭和50年代、60年代前後くらいまでですね。今はそんな話は通用しません。例えばひとつの例ですが、10軒ほど家が建っているのですよ。全部戸建て、全部入ってもらえばいいのですが、7軒しか入りません。3軒は入らない。なぜかという役員が回ってくるのが嫌だからです。猪名川の方にもあるのですが、戸建て90軒以上家があるのですが、自治会に加入しているのは、60%です。勧誘に行ってもほとんど入らないです。入らなければどんなデメリットがあるのだと言われます。別に何も無いのですよ。今のところは、よくわかっていて先ほどの発言があったと思いますが、私は本当に現実問題として捉えてほしいと思います。</p>
委員	<p>まさにその通りですので、そこを含めての市民意識付けということにつながっていくので、そういうこともやはり内容としてあるべき重要な部分になってきます。それがやはり担い手にも関わってくるし、自治会</p>

	<p>未加入の方にいかに入っていただくかというのも意識付けの中で、取り上げていくべきだというふうに思います。</p> <p>まさに、現実問題はおっしゃるとおりだと思いますので、それを少しでも進めていく中で盛り込めないかと思っています。</p>
委員	<p>そういう気持ちはわかります。</p>
委員	<p>自治会に入らなくても、何もデメリットがない、何も困らないというのは確かにおっしゃる通りです。しかし、私が言いたいのは、自治会に入っていなければ不利益になるという仕組みを行政の力でなんとかできないかということです。</p> <p>そして、もうひとつ、自治会が全てではありません。自治会でなくてもいいのです。たとえば昔のローマ市民権では、そのの街にやってくるローマ人は全部市民権を与えるのです。その市民権を行使することによって市民生活を享受する。それが理想的なあり方だと思うのです。それを行政が指導していかなければダメなのです。本当は一人一人に市民権を与え、その市民権を責任を持って行使する。そういう仕組みを作らなければいけません。</p>
委員	<p>地域分権の意見ですけど、「あなたたちだけで決めたと言われないうにしなければいけない」というところですが、誰が言われたかわかりませんが、この地域での合意の仕組みは難しいと思うのです。全市民を対象に意思統一なんて絶対できないです。</p>
会長	<p>それはそうですよね。</p>
委員	<p>地域の中でも分散します。リーダー的になる組織が、その地域によって違ってくるということもあるので、やはり、合意形成を総会などで三分の二などのように、ある程度、公式な総会で煮詰めてということが基本になって、地域としてはそうあるべきだと思うのです。</p> <p>助成金の額や、NPOさんなど規模が違ってくると思うのですが、大きな地域で考えれば、やはりこういった形でしなければ正式な承認を得たことにはなりません。</p>

<p>会長</p>	<p>やはり、どういう組織が小学校区程度の地域でこれから動いていくかは別として、その組織が地域でどうやって合意形成して最終的に意思決定をするのかというルールは、これはオール川西の統一ルールというのは必要かもしれません。</p> <p>組織の在り方は違って、合意形成の手続きというのは1本であっていかもしいですね。</p>
<p>委員</p>	<p>基本ですね。</p>
<p>会長</p>	<p>委員、どうですか、この優先順位ということに関して。</p>
<p>委員</p>	<p>今話を聞いていまして、地域で活動していましてある人がこういうこと言われたのですよ。「行政がしてないのになんで、地域でやらないと、あかんねん。」と。これが一つです。</p> <p>我々としては、いわゆる地域のあるべき姿というのは、3年後、5年後はこういうものですよという案を見つけるのですが、そういう意見が多いのです。</p> <p>ちょうど第5次総合計画というので出てきていますので、私は1番から3番まで、「地域であるべき姿を考える」というのを全部1位にしたいくらいです。せっかく皆で考えてきた内容ですので、できるだけ、これが一番とか二番とか、優先順位をつけるのではなく、私は全て地域でやりたいという想いが強いです。まあ、そういう意見もあると思ってください。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。時間的にできれば次の話に移っていきたいと思うのですが、どうでしょうか。優先順位と申しますか、委員がおっしゃったように、どれもこれも重要なのだよというものもあるのですが、ひとつのストーリーのような感じで、少し組み替えていくというのはあってもいいのかもしれないね。</p> <p>情報の流れの部分に着目して、例えば情報共有の部分で言うと、それがどういうことかという内容を、行政が発信する情報や地域同士の横のつながりの情報などにまとめて情報共有の部分からやっていこうとかいうことが考えられます。やはり手の付けやすいところと手の付けにくいところがあると思います。そういう優先順位の付け方というのはこの中</p>

委員	<p>にもあるだろうと思います。</p> <p>それからもう1点、あえて申しあげると、市の職員の意識の向上というのは、私はよく言うのですが、色んなところで市の職員研修でも言うのですが、地域の活動に加わって、そこで絶対に市の職員の人というのは公平・公正を旨として仕事をしなければならないのにもかかわらず、地域活動に関われば関わる程、地域の色々なしがらみの中で股裂き状態になるのです。その股裂き状態にあうことによって、私は職員の皆さんというのは鍛えられていくのだらうと言います。このことは市の職員として、川西市として、あるいは参画と協働の条例の理念に沿って、こういうことは地域でやってはいけませんとか、だめですということと言える職員になるでしょう。逆に、これは地域で本当に頑張っていることだ、ところが条例や法律や制度が壁になって、それが実現できないというなら、条例や制度やあるいは法律を変える方向に動けるのは、これまた市の職員しかいないわけです。</p> <p>そういう意味で言うと、私は市の職員の意識の向上というのは、地域活動に参加することによって磨かれるものだというふうに思っていて、そういったことも優先順位づけていうところからいうと、あってもいいのかと思いました。</p> <p>では2点目ですが、5年後の姿っていうものは、今の話の流れでいくと、これはもう示さなければいけないということでしょうか。</p> <p>私が思うには、5年、10年というのはスパンが長すぎると思うのです。3年、5年、7年、10年という形でもいいのではないかと思うのです。</p> <p>その中で、川西市の高齢化率がどんどん上がっています。ですから、私たち、70歳、80歳、90歳になった時に、どういう地域になっているかを考えなければいけないと思うのです。</p> <p>今一番、私が思うのは、一人暮らしの方、老々家庭、認々家庭に対して、今の段階であるのは見守りだけなのです。それを具体的に、地域として行政としてどういうふうにしていくのだと。たとえば認知症の方がまだ支援1とか2の方で、足が悪くて歩けないという場合、一人暮らしだったらどうすべきか。ヘルパーさんに頼むのか、包括のほうで何かしてくれるのかといたら、誰もそんなことはしないです。やはり、そういうことも地域で考えていかなければいけないのではないかというふうに思いますので、高齢化ということに対して、できたら取り組んでい</p>
----	---



	<p>ただきたい、考えてもらいたいというふうに思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今、言われたように、5年、10年というスパンの問題もあるでしょうが、地域では今年から団塊の世代の1期生が65歳を迎えるわけですから、今年からどこでも高齢化率がピーンと上がり始めるわけですね。この3年の間で。</p>
	<p>その後、地域がどうなっていくのかというのは、川西の14地区の中で言うとかかなりバラつきがありますよね。そうするとやはりその姿を、こういうふうな地域社会になっていく可能性がある、一人暮らしのお年寄りも増えてくるし、その時、その人達のことをどうやって地域で支えるかという意味でも、そのためにどんな地域であるべきかという理想像は示していく必要があるということでしょうね。</p>
<p>委員</p>	<p>地域カルテについてですが、校区ごとに高齢者の状況や公共交通の状況などを住民の皆さんが考えていくイメージでお話ししました。材料提供が先あって、それについて話しあえる場の設定という段階があって、その次の段階で将来像を考えていく、という感じですね。その整理がなければ、いきなりみんなが集まって将来像を語れというと、持っているデータも見えているものも違うから、バラバラになります。</p>
<p>委員</p>	<p>いま私が一番悩んでいるのはそこなのです。</p> <p>具体的に言いますが、グリーンハイツや大和、それから明峰、清和台、高齢化率が川西市の中で1位から4位までの地域です。先日、委員長が集まり、今言った一人暮らしの問題、老々家庭の問題、認々家庭の問題についてどうあるべきか、ということをお話し合おうということで、第一回目をやったのです。なかなか良いアイデアが出ないので、皆さん方のご意見を頂戴してやっていきたいと思っています。</p> <p>これは4地区の福祉部会の方でNPO法人を立ち上げて、成年後見人制度についての活動をしていっている最中です。</p> <p>将来、私は、地域というのが、小学校区がいいのか、どこがいいのかわかりませんが、私の意見としては、例えば今言いましたように、4地域が1つになってNPO法人を立ち上げて何かをやるというふうなことをこれからは考えていかなければと思っています。</p>

	<p>3年・5年・10年というスパンで考えたときに、我々の地域だけでは小さすぎます。もう少し大きくしようと思うと、5つも6つも一緒にしたら大きすぎますので、私の経験から言うと4つが一番いい。3つもダメです。そういうことを参考に考えていますので、そういう発言したわけです。</p>
<p>委員</p>	<p>理想像というのに、たった5年というのが私には理解できないのです。5年というのは、あつという間なので、小学生1年生が大学生になるくらいの期間で地域が変わっていればいいと思うのですよ。地域はゆっくり動かなければいけないのです。あまり突然ポンッと動くようなものはあまりないと思います。ですから、5年後の姿をどうするかというのがすごく不思議な感じがします。</p> <p>最低15年や20年...総合計画は10年ですからね、まず。5年5年で分けるのですよね。10年くらいないととてもじゃないけれど、ゆっくり動けないですよ。そのあたりで、理想像が5年というのはどうかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>理想像をどこにおくかというのは確かに悩ましいところかもしれませんが、ただ、日本全国どこでも、これもずっと申しあげていますが、今年から団塊の世代が65歳です。2022年問題ですね。</p> <p>要するにその人たちが、あと10年したら後期高齢者になっていきますから、だからこの10年というのはすごく大きな勝負の時期であることは確かですね。そうするとこの2022年という10年後というのは、ある意味川西市の地域にとっても、非常に荒っぽい言い方でいいますと地獄絵図でもあるのですよね。けど、そうならないために、では、みんなでどうするか。その時に、委員がおっしゃるように、1つの小学校区ではもう支えきれないというところも出てくる。そうすると、それは2つ、3つ、4つが一緒になるという選択の仕方もあるというようなことですね。</p>
<p>委員</p>	<p>時代の移り変わりは、10年経ったら変わってしまうということなので10年見越した計画はいいのかと思うのですが、おっしゃっておられる後見人を自主的に立てていこうという取り組みも大事だと思います。</p> <p>それと同時並行してほしいのは、やはりさきほど担い手の話をされていまして、そこは捨ててはならないとこですし、その部分というのはぜひとも、同時並行で進めていく将来像になってほしいと思います。</p>

	<p>もうひとつ、10年というスパンで考えるなら、60代、70代の人から主役になって街で活躍していただくというのは全然問題ないと思うのですが、逆に、40代の人はどうして入ってこないのか。ちなみに私は40代前半ですが、では、そういった人間がどうしてここにいるのかということですが、やはり、この街で生活させてもらっているという気持ちと、この街で商売をしているということが大きな事です。それ以外に自分の中のテリトリーがないわけじゃないですけど。いずれにしても、この街に育てていただいているという気持ちが強いので、それはたぶん我々の年代の事業者さんはそう思われている方はけっこう多いと思います。</p> <p>一般の市民の方でもそれと変わらない想いになれるような仕掛けを地域でやっていくべきだと思うのです。</p> <p>商売人になれという意味ではなくて、ぜひとも一緒になって取り組んでいくことが重要だと思います。</p> <p>子育て・年金・医療という区切りで言えば、おっしゃるように、老人福祉・医療を最優先にすべきだと思います。しかし、5年計画、10年計画というものを考えるのとは次元が違います。</p> <p>川西市でも市民病院の大きな問題があります。通いにくい、医療を受けにくいというような、色々な問題があります。その市民病院を活性化して、有効にするために何をするのか。例えば、池田と川西と豊中が合併したらそれぞれの市民病院が効率的に動きます。本当に市民が潤えるようなバスの循環もできますし、大変なメリットがあります。</p> <p>合併とはいかなくても、その病院3つが提携するなど、そういう次元の違う考えはできないのでしょうか。</p> <p>そういうことを、5年計画あるいは10年計画というようなことができないものかと。こういうことを行政の人にお願いができないかと思います。やはり市1つでは無理なことがあります。優秀な部長さんは区長さんにして。市長1人では手が回りません。もっと効率良い、市民に目を向けたサービスができるようになります。</p>
委員	<p>子育て・年金・医療という区切りで言えば、おっしゃるように、老人福祉・医療を最優先にすべきだと思います。しかし、5年計画、10年計画というものを考えるのとは次元が違います。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。</p>
委員	<p>先生おっしゃったけれど、私はそれは考えてはいません。普段のこと</p>

<p>委員</p>	<p>は。</p> <p>ただ、さきほど委員がおっしゃった3つの話は、それが今後の地域ビジョンの中にもそういう話が当然出てくると思いますが、それがいわゆる将来にわたってのあるべき姿を今模索しているわけです。要はそれを、まちづくりとどう結びつけていくかなんです。それがこれからの議論になってくるのです。</p> <p>NPOを作られて、老人福祉に関してそのNPOを我々がやりましようとなったら、それがひとつの活動団体になるわけですね。そういう活動団体に対して、地域分権と市長がはっきり言われているので、地域分権の中でお金をいただきたい、こういうことやるから、お金をいただきたいと。そういうことがこれからの課題になっていくわけです。そういう話をドンドンしていった方がいいという気がしています。</p> <p>理想像についてあったほうがいいなどの発言がありました。それが5年なのか10年なのかというお話もありました。最終的な目標というのはやはり今委員がおっしゃったように短すぎるし、無理があると思います。</p> <p>10年後のオール川西の、例えば具体的な話になりますが、目標をキャッチフレーズ的なもので、「人と人のつながり 1」。それが兵庫県内なのか日本なのかは別ですが、人と人とのつながり 1、住みやすさ 1というようなテーマや、例えばサブタイトルに、「それぞれの魅力を最大限に」というものをつけて、10年後にそうなりたいなど、でもおっしゃっているように地域ごとに違うわけですね。そこでそういう大きな理想像があってテーマがある中に各地域、小学校区ごとになるのかわかりませんが、地域の中で自分たちの人と人のつながりを、高齢者をつなげていくこと、住みやすさってなんなの、高齢者が住みやすい街を作ることっていう地域が出てきたり、若い人たちがいっぱいいて、子育てしながら外に出なければならない場合に、では預かってくれる人はどうなるの、そういう若い世代がいるところは、若い人たちが働きやすくなる、仕事に行きやすくなる、しかも子育てを周りの協力を得てできる。</p> <p>また、事業者があるとか産業がある地域であれば、つながりや住みやすさなど魅力を最大限に出すなら、川西市はイチジクが日本全国で 1のブランドになるように考えるなど、何か共通の大きな理想像を掲げ、それぞれの地域の魅力を最大限にするために地域でそれぞれの課題を解</p>
-----------	--

	<p>決していく。ある意味、高齢者がたくさんいるという地域というのは高齢化が問題になっていますが、問題というふうにとらえれば問題なのですが、切り口を変えれば、これから自分たちが歩む先のことを先に考えてくれる地域なのですよね。</p> <p>ですから自分たちの魅力とは何なのかと考えれば、やはり60代、70代、80代の人たちがたくさんいるということ。だから先んじて川西市の中でも高齢者対策をやりますよと。それが後の地域のモデルにもなっていく。若い人たちがたくさんいる地域では、やはり高齢者の人たちだけでそういう若い人たちのことはわからない。だからそこをやっていく。</p> <p>大きなテーマが共通のテーマとしてあって、それぞれの自分たちの魅力を生かしていく、反対に言えば問題を解決していく、というのが地域分権という制度を生かしていくということになるのかと思うのです。</p> <p>「人と人のつながり 1、住みやすさ 1、オール川西」というふうに10年後の姿を掲げたとしたら、10年先のことをずっとやっていくのは厳しいということなら、たとえば3年後に、人と人とのつながりであるならば、「隣の人とあいさつができる」、例えば5年後は、「話ができる」、10年後になったら、「助け合える」。そんな人づくりのイメージが浮かぶような理想像が結びつきます。</p> <p>さきほどの、どの項目を優先的にとか、ストーリーをとというのは皆さんいろいろ出されたのですが、例えば、こういう時間軸やそれぞれの役割がある中で、オール川西のこういう10年後の理想像がここにある、時間軸があって、さあスタート、市民とか行政とか、あとは情報共有、いろんなカテゴリーにわけてそれぞれが動いていくのがわかりやすく、見えやすいと思います。</p> <p>理想像に関してはそういう感じで、オール川西にそってあるべきで、そこに向かっていくために各地域ができること、特化してできること、それが地域分権制度を導入してやっていく方法になるのかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今、市の方で、一方で総合計画を作っている中で、その総合計画の中で、10年後の姿というのは、一定は示されるということになるのですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのとおりです。</p>

<p>会長</p>	<p>その時に、もうひとつは地域別構想があるので、その地域別構想があるべき姿だということで、これからもラウンドテーブルを一生懸命やって、みんなで構想をつくっていくわけですね。</p> <p>その意味で言うと、自ずと将来像というものは、総合計画にも出てくるかもしれませんが。ですから、総合計画実現に向けて、まさに人と人とのどうやって繋げるのかという意味での理想像のようなものが必要なのかもしれませんね。</p> <p>おっしゃるように、挨拶をするところから始めるとか、そういう話があってもいいのかなと思いますね。</p>
<p>委員</p>	<p>そういう考え方があるかもしれませんが、私は個人的に言えば、この推進会議の中で理想像を示す必要はないと思っています。</p> <p>地域ビジョンは各地域で3回ずつ、既にやっているのです。それは、第5次総合計画での10年後の姿を考えましようということで、各地域でやっています。それを中間的に5年先をもう一度見直しましようという話になっているので、ここでも同じようなことやっても意味がないと思います。</p> <p>ここではあくまで推進会議のいわゆるまちづくり推進条例に基づく検証と施策、それを重点的に考える場だと思います。</p> <p>それに関連して、去年から市長はまちづくりということに関しては「地域分権」だという考え方でいったほうが、わかりやすいです。無駄な時間と言ったら失礼ですけど。</p>
<p>委員</p>	<p>総合計画の方でキャッチフレーズのようなものをやりましたか？</p>
<p>委員</p>	<p>やっています。全部やっています。</p>
<p>委員</p>	<p>もちろんそれがあるのであれば、そこが半分見えていない部分があったので、あったほうがいいなという意味で話したのですけれど。</p>
<p>委員</p>	<p>やるという前提で考えたら、この半年間で、「地域で想いを持っている」とよく言われたので、想いのキャッチフレーズも別に構わないかなと少し思ったのです。具体的などこうというキャッチフレーズではなくて。地域は具体的にやってきていますから。川西の想いというもので。</p>

<p>委員</p>	<p>でも総合計画ではその想いのキャッチフレーズはあるのですね。</p> <p>この5年後の理想像ということですが、地域別懇談会を各地域で3回ずつ開催して、それぞれの地域で出された課題や地域別構想につなげていき、地域のあるべき姿というものがあると思うのです。</p> <p>やはり、参画と協働という中で一番大事なものは人と人とのつながり。人とのつながりをいかに深めていくかということが参画と協働のまちづくりの中での一番のキーワードで大事なことだと思います。</p> <p>それはやはり今の社会の中で一番問題になっている無縁社会であるとか、そういったつながりが薄くなっている、こういうことがなくなっていく社会っていうのが、それがまさに理想像なのだろうと。</p>
<p>会長</p>	<p>それがまさに理想像だということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>やはり私は市全体で「つながり」というキーワードを作った中での理想像を持ちながら、市全体の共通する中で、地域は地域で担いながら考えていくという方向に行ったらいいのではないかと思いますね。</p>
<p>会長</p>	<p>具体的な今までの議論を整理しますと、将来像を具体的に示すというのは、これは総合計画の方でいろいろある話だということですね。</p> <p>ただ、ここではこれからも仕組みの部分を地域分権の話で検討していくわけですから、その結果として5年後、10年後くらいにどんなつながりがあって、望ましいつながりが川西でできていることを目指すのだという将来像というものが前提としてあっていいのかという議論でしょうか。つながりの部分でね。</p> <p>それからもう一つ、3点目であります地域という言葉。今日もずっと色々地域という言葉でできていますけれど、こういう言葉の定義というのは難しいかもしれませんが、前回指摘があったようにこれから地域分権という話をするとすると、「地域」という時に一定のやっぱりイメージ、ルールは共有化しておく必要があるのではないかとこのところでご意見をいただきたいと思うのですが、これについていかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>やはり私はもう小学校区を基本に、ただしこういうふうには何かの目的によって合併するというのはいいと思うのですが、ただ合併しても、あ</p>

	<p>くまでも小学校区っていうのは既存のままで合併するのですよね。だからそういうのはありますよという補足をつけて、基本は小学校区というふうにしていなければいいなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>全く同感です。</p> <p>よその市に比べて、川西市はコミュニティ組織そのものが昔からできているので、概ね小学校区単位でいいと思います。ただ何回もいいますが自治会の加入率は別ですよ。それは千差万別ですよ。しかし、ある程度、地域的なまとまりのあるコミュニティはあるのでね。それが中心になるとかではなくて、自治会＝コミュニティの場合もありますからね。ただ、単位ということで「地域」に関しては、おおむね小学校区単位でいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>では、地域という言葉については、これから地域分権の話も検討していかなければいけません、概ね小学校区の範囲ということで決めてしまっているのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私も小学校区単位でいいと思います。</p> <p>小学校区単位で「概ね」というのは、もともと社協のほうで地区福祉委員会を作るときに、グリーンハイツや清和台という大きな自治会は2小学校区にまたがっているというところがあるので、その中で話を進めていくのにはそういう意味で、コミュニティ単位でいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>では、「地域」については、概ね小学校区という理解にさせていただきます。</p> <p>委員が、今、取り組まれているように、やるべき仕事によっては、当たり前ですが、小学校区を超えて協力して取り組まなければならない仕事も当然ありますし、ただこれからの高齢化社会を見据えると、どんどん担い手を求めていくということになると、学校を超えて活動しなければならないこともあると、ただ一方で、次の世代のこども達も確実にいるわけですから、次の世代のこども達の核となる小学校というのも重要な単位なのだろうと思いますね。</p> <p>ただそうなる、いつも思うのですが、中学校がかわいそうだなと思うのですよ。小学校までは一生懸命みんな、こどもも可愛いし、地域</p>



	の小学校についてはみんな協力するのだけれど。
委員	でも既存の団体で中学校区を基本としているところありますよね。
会長	そうですね。当然、それを小学校区に分ける必要は全くないと思うのですね。ただ中学、特に担い手の話で言うと、中学校までPTAで頑張っていたお父さんも、その後、引退されることが経験上多いという気がしています。で、次に帰ってくるのは定年ということがすごく多く、中学校までのPTA活動が、その後も会社勤めしながらも地域で活動していけるような仕組みというのを作りたいなと、ずっと思っていましたね。そういう意味で言うと、中学校区というのも考えていかなければとも思っています。ただ、ベースはやっぱり小学校区というのは、これから「地域」というときには概ね小学校区という使い方をしていこうということにしたいと思います。 それでよろしいですか。
委員	中学校区は使わないのですね。
会長	使わないというか、「地域」と言ったときには、概ね小学校区をベースに考えるということですね
委員	小学校区というと、暗黙に、=コミュニティというふうになるのですね。だからそこは外せないというところがあるかもわかりませんね。
委員	確かにイメージではそうですね。
委員	小学校区と言ったら、コミュニティのことを言っているのだなと。
委員	中学校区とは、中心部で言えば小学校が3つ集まって1つの中学校区です。多田や清和台もそうですね。緑台、東谷が3つくらい集まっています。小学校が複数集まって一つの中学校、それから一つの小学校のところがあるまま中学校区といったところもあります。
委員	各小学校が2つあって、例えば清和台・清和台南がありますけど、こ

	<p>れを合わせて区とはいいませんからね。</p> <p>あくまで小学校は小学校で終わります。小学校区とは言いませんからね。小学校区となればイコール、コミュニティ。</p>
委員	<p>そのあたりが、少し違って、「清和台地区コミュニティ」となります。</p>
委員	<p>うちでもね、3つあるのです。青少年育成委員会が中学校区、それ以外は小学校区、イコールコミュニティという形になります。</p>
委員	<p>民生も人権もですね。</p>
会長	<p>それをまとめてやっていくのはどこの単位が一番いいのかというと、やはり小学校区ですねということです。</p>
委員	<p>地域で小学校区と言ったらコミュニティのことを指しているのかという確認がきます。その時に「そうです」と言っているのか...</p>
委員	<p>それは言えないですね、桜小はないわけですから。それ引き合いに出したらある程度は理解してくれます。</p>
会長	<p>はい、どうぞ。</p>
委員	<p>はい。地域に関する定義はそれでいいのですが、少し不明な部分があるので教えてください。</p> <p>先ほどから、この推進会議で何をするのかということで、総合計画だとか地域別構想だとかいうものを整理してきましたが、地縁団体だけでなく、志の方の志縁団体が抜けています。中間報告の4ページのところを見ても、「市民公益活動団体で地縁団体と志縁団体の大別できます」と1行目に書いていながら、志縁団体に関する参画と協働のまちづくりのことが、ほとんど書かれていません。これから最終答申に向けて、地縁団体については地域ラウンドテーブルをやっていくということですが、志縁団体の方がすっぱり抜けていませんか。</p> <p>それを検討するのがこの推進会議の場なのかという確認を取って、そうであれば、志縁団体への支援を追加項目として書く必要があると思います。</p>

	<p>ます。</p> <p>資料3のところかというと、市民提案型協働助成や市民活動センターとボランティア活動センターの連携ということを、意識的に盛り込んでいく必要があります。また、ラウンドテーブルについても、今、行政で考えておられるのは校区ごとの地域開催のようですが、一般的にはテーマ型のラウンドテーブルもよく開かれています。そういうことも意識しておかなければ、総合計画でやるべきものに関わりすぎているような印象があります。</p>
委員	<p>それを心配するのは、テーマ型はそれでいいです。ただそれを活用するのはどこかというところ、やはり地域になってくるのかと思うのですが。</p>
委員	<p>地域だけではないと思います。志縁団体には全市を対象としたものもありますし。</p>
会長	<p>全市の部分もあるでしょうし、地域においてもありますね。</p>
委員	<p>例えば、男女共同参画や人権擁護とかいうと、全市になってきますよね。さっきおっしゃった4団地というのも、地域とは言え、同じテーマのくくり方といった感じですよ。</p>
委員	<p>確かに小学校区でというのも、都合上、活動範囲をくくるということなので、全然、なんら気にしていません。</p> <p>しかし、ただ、川西という街は地形的にも歴史的にもひとくくりができるような大きなくくりというのがあります。その中で校区が分かれているのは、学校の出来上がっていった過程があるということで、グリーンハイツという一つの地域があったり、大和があったり、中央北地区というのがあったり、加茂、久代があったり。その活動範囲にも何か似通った動きがあるのになぁと思いつつ聞いていたんですが。</p> <p>それをあえて小学校区単位でくくるというのであればいいのですが、確かに地域を飛び越えて、よその地域にお手伝いしにいこうという動きも実際あるわけですし、我々事業者も、例えば東谷に行ってこんなことしようとか、多田でこんなことしようとか、中央町に行ってこんなこ</p>

	<p>としようとか、実際やっているわけなので、色んな働きをされている方がおられると思いますから、そういうことは確かにどこかに残していただきたいです。</p>
<p>委員</p>	<p>私の地域なんかは、事業所が少ないのです。そういう意味では、小学校区で区切られてしまうと寄付なんかはもらえないです。今も跨っていますから、他所のどこに来て縄張り争いみたいな。だからどっちかに合わすのがいいです。</p>
<p>会長</p>	<p>ここまでの特に地域と全市という話で、ご自身の活動で何かご意見があればお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>初めて参加して、地域分権という言葉自体が新鮮に聞こえたのですが、やはり地域ということに関しては、先ほど言われたように小学校区という形でやっていった方がいいかとは思いますがね。</p> <p>ただその時にやはり、小学校区だけでやる場合は、やはり範囲が、狭くなってくるので、活動自体ができない部分もあるのかと思います。</p> <p>もう少し活動を広げていくためには、もう少し、中学校区などにしていった方がいいのかなとも思いますが、中学校区にするとやはり広すぎるので、言われているように小学校区でやっていくのが基本かと思えます。</p> <p>活動している人間としては、あまり広くなると上手くできないことがたくさんありますので、委員がおっしゃったように色んな思案の中でやっていると、私たちはどうしてもその人のプライバシーを飛び越えなければできない部分もあるのです。それを地域の人たちによく理解をしていただいて、自治会なりコミュニティなりそういうものを含めた活動の仕方をしていかないと、今からやはり高齢者支援、高齢者自体が何かあった時に助け合いとかがあります。ある程度のプライバシーは飛び越えていかなければ、人を救えないというのが、私が今までやってきた中で実感としてあります。</p> <p>コミュニティは、今はすごくいい働きをしていらっしゃいますので、何も言うことはないですが、やはりそういうことは、ひとつ考えてほしいというふうに思っています。それは地域活動につながっていくと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>まあ、今、地域をどのように認定するかという話ですが、それはあくまでも我々の認識、あるいは我々の都合ですよね。</p> <p>行政の立場として、地域をこういうふうにとらえた方が、より効果のあるまちづくりができるというような何かはないですか。</p> <p>我々サイドが地域はこうですよ、これを「地域」にしようと言ったら、「あ、それで結構です」となるのですか。なったら、なったでいいですけど思い残すことがあったらいかんと。この際やるのだったら行政として都合があるでしょう。この際ね、やるのだったら行政は行政の都合のいいように「これを地域として認識してください」という、それが、私が前から言っている行政の働きかけということです。</p>
<p>事務局</p>	<p>いえ、今回あえて投げかけさせていただいたのは、別に行政の方が「決めてくださいね」という話ではなく、皆さん方の議論の中で出てきている「地域」のイメージを皆さん方自身がやはり共有をしていただく必要があって、その思いがばらばらであると、我々の方も再整理をする必要がありますし、一定、今のご議論聞いていましたら、まとまっていく方向かなというふうに見受けていますので、皆さん方の確認という意味でおさえさせていただいて結構です。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、こういう機会に行政としては「こうあるべきだ、こうあってほしい」というのを、聞きたかったのです。</p>
<p>会長</p>	<p>それを確認していただいたということですね。ありがとうございます。</p> <p>あまり時間が残っておりません。とりあえず今日課題として提起させていただいているものについては、議論尽くせたとはい、なかなか思いませんけれども、少なくとも地域の話と、それから理想像については、絆みたいな部分での理想像っていうのは、これはあっていいのかなと。</p> <p>ただ、地域の将来像についてはこれ総合計画に委ねようではないかということです。</p> <p>それから順位づけ、優先順位づけに関しては、これもう少し考えていかなければいけないということになるのかと思います。</p> <p>それについては、お気づきのことがありましたら事務局の方にご意見を</p>

事務局	<p>いただきたいと思います。</p> <p>時間ではありますが、まだやらないといけないことがありますね。その他のところ。事務局お願いします。</p> <p>それでは、議事の2つ目 その他について、事務局の方より連絡させていただきます。</p> <p>議事の2つ目「その他」の部分ですが、2点ご報告させていただきたい事項がございます。</p> <p>まず1点目ですが、お手元に今日配布させていただきました資料で、「参画と協働のまちづくり推進条例の施行規則」、こちらのA4横の分です。推進会議にかかることで規則改正を予定しております。そちらについてもご報告をさせていただこうと思ひまして、1枚めくっていただきますと2ページ目の右側、これが改正後の案ですが、今日の冒頭、ご説明させていただきましたように、推進会議の方に部会を設けたいというふうに考えておひまして、これは年を明けてからの話になるのですが、規則改正の方を先にやっしまおうかなと思ひしておりますので、第8条に「部会を置くことができる、部会に属するべき委員は会長が指名する」などといったことを定めさせていただこうかと考えておひますので、この席でご報告をさせていただきます。</p> <p>それから2点目ですが、実は、副会長は、現在、川西市コミュニティ協議会連合会の理事というお立場で、連合会からご推薦いただき、土肥委員とともに当推進会議にご出席いただひているのですが、川西小学校区のコミュニティ会長でいらっしやる副会長が、今年度変わられるということで、川小コミュニティの方から別の方が会長さんとして、今後、連合会の理事となられます。それに伴ひまして、また新たに連合会の理事の中から委員を推薦していただくということが、実は昨日の連合会理事会で決まりました。副会長の連合会理事の任期が、6月15日までということになりますので、次回の推進会議は7月に入ってからということになり、今日が副会長の最後の推進会議ということになります。</p>
会長	<p>連合会の方の決まりといひますか、私どもの方は連合会さんに委員推薦をお願いしているという形になるのですね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>

<p>副会長</p>	<p>平成22年12月22日から第一回が始まるまちづくり推進会議のメンバーの中に連合会の方から2名出していただきたいというような話が来たわけです。</p> <p>その時点で、私と土肥委員が22年度の12月22日付で就任し、任期は2年と。その選出の区分の中でコミュニティ連合会の中から2名出してくれと。前提条件みたいな形で。その連合会に出席されるものはみんな理事です。13コミュニティあるのですが、そのコミュニティの会長さんが理事ということになっています。</p> <p>川西小学校区の会長は会則で任期は1年ですが、継続は3年間までとなっており、今年、私から5月12日に新しい会長さんに引き継いだのです。その方が、今度6月16日にコミュニティ連合会の定期総会があり、その時に川西小学校区の会長ということで、理事に承認されます。したがって連合会から2名というような推薦ですので、次の人に引き継ぐということになります。</p> <p>ただし、次の人は私の任期の残存期間ですね。ですから6月16日から12月21日まで、約半年間が私の残りの期間を引き継いでもらうという形になるのです。そういう形で議論の上、決まりました。</p>
<p>会長</p>	<p>連合会ではそういう決まり事もあるということなので、あと半年間を後任の方に引き継いでいただくという形になります。</p> <p>では、副会長、ひと言、ご挨拶をいただけますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜副会長退任挨拶＞</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。本当に、副会長には色々な意味でお世話になり、またご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。</p> <p>先ほども言われましたが、これからが地域分権の仕組みの話ですから、ぜひ色々な意味でご意見をいただければと思います。</p> <p style="text-align: center;">＜日程調整 次回は7月5日午後6時からに決定＞</p>